

平成27年度事業報告

社会福祉法人花水木の会

事業報告

本部

- ① 店舗の改修工事をしました。信用金庫時代の広場をカフェテラスにしました。
緑の木々を植え、地域住民の憩いの場にしました。
併せて、かすたねっとの認知を広める役割を果たすことと考えます。
コーヒーを飲みながらお休み処になります。利用者には一層の社会参加が促進されと思います。
- ② 事務局においては、新会計制度の新年度になりました。今までの会計数理の不備を整理・整合の作業をしながら、新会計の制度に則した計算書を作成しました。甲田公認会計士さんの助言を受けながら行いました。
また、会計監査においては四方公認会計士さんをお願いしました。
精緻な計算書になるよう研鑽していきます。
- ③ 職員会議を毎月開きました。議題は月次の売上・商品別売上・部門別売上等を検討をしながら、商品・生産管理を行いました。在庫管理等のコスト削減になりました。
課題の掘り起し・検討・解決を行いました。
毎日作業終了後、「ふりかえり」会議を行いました。利用生の健康から作業までその日の様子を職員が報告をしました。職員の支援の在り方をふりかえり、適切な方法を共有し合いました。また、明日の作業予定と役割を話し合いました。
- ④ 販売先の開拓を進めました。(株)東芝さんと毎月販売ができるようになりました。昨年12月に浜松町ビルのテナントさんと東芝さんが主催するバザーに出店し、3時間で30万円の売り上げがありました。
工場が川崎周辺のため、行くのに1時間30分程のかかります。
- ⑤ アメリカン・エクスプレス・インターナショナル社さんは社員ボランティア制度があり、
社員6名が当所に1日ボランティアに参加されました。利用生の働きに驚いていました。
交流を深めました。

かすたねっと（就労継続支援 A 型事業所）

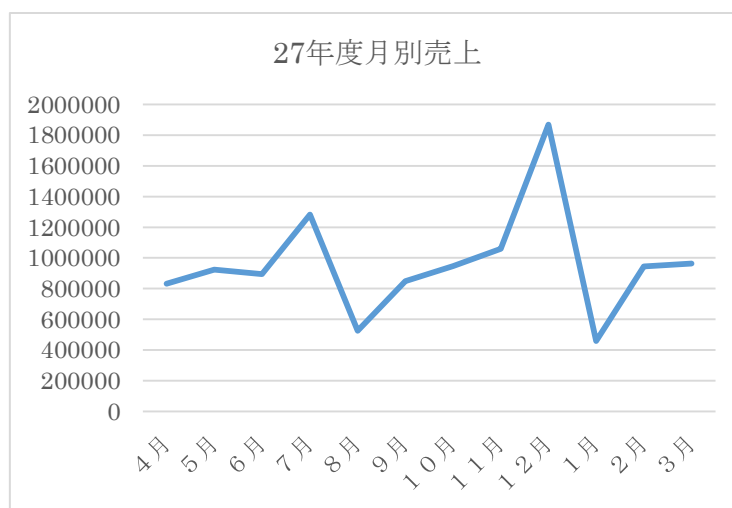
事業目標と実施報告

利用者数：男 6 名 女 4 名

① 売上 26,864 千円（目標 26,000 千円）

平成 27 年度実績

月別・日別の生産量		
	クッキー26種類	ケーキ24種類
年間製造量	41,738	41,235
月別平均	3,478	3,436
日別平均	180	178



- ② 最低賃金 907 円になり、適用しました。
- ③ B 型から A 型に 1 名移籍をしました。また、体力・作業の減退があり、B 型に 3 名移籍をしました。
- ④ 個別支援計画書を各利用者に作成し、保護者に説明をしました。
- ⑤ チョコレート（2 種類）を試作し、販売をしました。季節限定商品
- ⑥ 体に優しいクッキー（ジンジャー・黒糖）の製造・販売 卵・バターを使わず、
- ⑦ 種油、全粒粉、キビ砂糖、黒糖で作りました、

かすたねつと桜台（就労継続支援 B 型事業所）

事業目標と実施報告

利用者数：男 9 名 女 6 名

- ① 工賃向上を図りました。
平均：26,422円（都内14,000円）
- ② ホームページの「かすたねつとお知らせ」を更新しました。
職員募集・B型利用者の募集においては従来の内容とは違う「働きながら就労を目指す」のテーマで新たにしました。
- ③ 個別支援計画書を各利用者ごとに作成し、本人・保護者に説明をしました。
- ④ 受注事業：フェルト梱包の仕事は毎月あるようになり、利用者には仕事に変化ができ、楽しみになるようになった。練馬区共同受注仕事が不定期に来るようになった。
- ⑤ 津南リゾートホテル（新潟県）2泊3日の旅行に利用者・職員・保護者・こぶしの家利用者で行きました。
- ⑥ 夏休みの期間（7月～8月）練馬・板橋・中野等の特別支援学校高等部の親子30名ほどがクッキー体験会に参加をしました。

こぶしの家（共同生活援助）

事業目標と実施報告

利用者数：男 5 名 女 3 名

- ① 利用者にかぶしの家が自分たちの住処という意識が芽生えてきた。部屋の掃除・共用部（廊下・階段・トイレ・風呂・洗面所等）を分担しながら、自主的に掃除をしている。
- ② 食材会社から夕食用材料を調達し、調理をする方法に変えました。職員の負担軽減となった。
- ③ 職員会議においてこぶしの職員体制・IT化・支援について協議を重ねた。

サポートセンターみちあんない（移動支援事業所）

事業目標と実施報告

- ① 職員1名体制になり、コーディネーターが主業務とするようになった。
- ② IT化を計り、業務改善に努めた。

- ③ ヘルパー報告を保護者にも通知し、3者の信頼関係を築いた。
- ④ 売上げが低下した。①が主な理由であるが、ヘルパー数が減少した。

かすたねっと相談事業所（計画相談事業所）

事業目標と実施報告

- ① 相談件数が33件あったが、支援費：53万円
- ② 児童の放課後ディサービスを利用するための計画作成数が60%あった。
- ③ 福祉サービスを利用する為に計画を作る大事な仕事であるが、2・3・9月に集中するだけで、事業化は難しいと思います。